

# 経営体の概要

## 1 経営概況

(1) 氏名(ふりがな)、年齢 桑原 茂 (くわはら しげる) ( 57 才)

### (2) 地域の概要

津南町は信濃川の支流に沿って雄大な河岸段丘が形成されており、当該経営の所在する豊郷地区は清津川と中津川に挟まれた標高約500mの台地に位置している。国営農地開発事業によって大規模な農地開発が行われ、整備された水田が広がるとともに、畑作も盛んである。  
酪農は6戸で約200頭の乳牛が飼養されており、飼料用トウモロコシの作付面積が約45haとなっている。

### (3) 経営の経過

| 年 月       | 事 項                         | 経産牛頭数 | 備考(左記に伴う施設整備等)            |
|-----------|-----------------------------|-------|---------------------------|
| 昭和55年4月   | 就農                          | 8頭    |                           |
| 昭和55年12月  | 20頭規模の牛舎新築                  | 13頭   | 牛舎、パイプラインミルク、バンクリーナ、気密サイロ |
| 昭和58年4月   | 育成牛を北海道等から導入                | 20頭   |                           |
| 平成6年10月   | 通年サイレージ給与開始(デントコーン)         | 20頭   |                           |
| 平成7年10月   | 離農した和牛の牛舎を借り、育成牛舎として使用      | 20頭   | 育成牛舎                      |
| 平成10年10月  | 牛床にモミガラを使用                  | 20頭   | パイプを活用した敷料止め              |
| 平成11年8月   | 暑熱対策として、トンネル換気システムを導入       | 20頭   | トンネル換気設備                  |
| 平成14～19年度 | 小学校総合学習活動(児童の酪農体験受入)        | 20頭   |                           |
| 平成18年4月   | パイプラインミルクの更新                | 20頭   | パイプラインミルク                 |
| 平成20～22年度 | グリーン・ツーリズム活動(児童・生徒の酪農体験受入)  | 18頭   |                           |
| 平成23年度    | 畜産安心ブランド生産農場認定(クリーンミルク生産農場) | 16頭   |                           |
| 平成25年4月   | 長男が後継者として就農                 | 16頭   |                           |

(4) 認定農業者  ・ 無 認定年月日 (平成22年2月16日)  
所得目標(平成26年) 5,000 千円

(5) 後継者  ・ 無 (氏名 桑原 洋貴 22才)

### (6) 労働力の状況

| 総労働数<br>(人/年) | 労働力の状況    |             |              |              |
|---------------|-----------|-------------|--------------|--------------|
|               | 家族<br>(人) | 常時雇用<br>(人) | パート<br>(人/日) | 研修生<br>(人/日) |
| 3             | 3         |             |              |              |

(7) 畜種(経営の形態) 酪農経営

(8) 規模・頭数 経産牛16.3頭 生産量(年間出荷量等) 生乳165,203kg

(9) 自給粗飼料面積及び生産量  
デントコーン 合計 6.5 ha 生産量 330t

(10) 耕畜連携の状況  

耕種農家との間で、堆肥とモミガラを交換しており、ふん尿を適正に処理するために十分な量のモミガラを確保できている。牛舎内で水分調整を行った堆肥は発酵状態も良好で、主に露地野菜(ニンジン・アスパラガス・大根・トマト等)の栽培に使用されている。  
周辺は県内有数の露地野菜の産地であり、当該経営の供給する良質な堆肥は地域農業に欠かせないものとなっている。

(11) 経営の特徴  

- 平成10年以前は、乳房炎が多発しており、対策に苦労していた。当時は稲ワラを敷料として使用していたが、十分な量を確保することが困難になり、家畜指導診療所に相談した結果、モミガラが乳房炎対策に効果的であることを知り、平成10年10月からモミガラを使用し始めた。その後、乳房炎が激減し、現在はほとんど乳房炎の発生はなく、平均体細胞数は14.1万個と良好な数値を維持している。
- モミガラは、1日3回(朝、昼、晩)交換し、1日当たり軽トラック1台分と大量に使用するが、近隣の耕種農家から入手する量で十分賄えている。また、モミガラ交換は手間がかかる作業であるが、この手間を惜しまないことが、清潔な牛舎内環境の維持につながり、乳房炎対策のみならず、他の疾病対策や悪臭軽減につながっている。
- 自給飼料としてデントコーンを栽培しており、サイレージ調製して給与することで乳飼比は21%と低く、高騰が続く配合飼料の購入量を少なく抑えることで低コスト生産に努めている。
- 牛群検定を実施しており、検定データを基に個体を適切に管理することで、平均分娩間隔は14.3か月、受胎に要する種付回数は1.5回と繁殖成績が高位に安定し、経産牛1頭当り乳量も10,135kgと県の指標値9,300kgを大きく上回っている。

(12) 取組の先進性、経営戦略など  

- 手間暇をかけ、牛の健康を第一に考えた飼養方法を実践することで、自ずと良好な牛舎環境及び成績の高位安定につながっている。
- 長男が就農したことから、規模拡大を考えているが、今後数年間は現状の頭数を維持しながら、飼養技術や観察眼を身につけさせたいと考えている。また、現在、長女がパティシエの専門学校に通学しているので、将来は自家生乳を使ったスイーツなど加工部門を担当させ、六次産業化を図りたいと考えているが、具体的なビジョンは未定である。

(13) 地域への貢献  

- 平成22年までは地元の小学校の総合学習受入や県内外の小中学生の酪農体験受入など積極的に活動していたが、国内で口蹄疫が発生してからは受入を中止している。今後、畜産情勢の変化を考慮しながら、児童・生徒の受入について検討したいと考えている。
- 津南町は露地野菜の生産が盛んで、当該経営が供給する良質堆肥は地域農業に不可欠となっている。

(14) 今後解決すべき経営上の課題  

- 乾草は全て購入しているので、今後は乾草を自給したいと考えている。